

紙版 ハコブネ×ブックス vol.41

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



サステナブル・ビーチ

作者 小手鞠るい
出版社 さ・え・ら書房
発行 2021年4月
ISBN 978-4378015576

review



夏休みにハワイに遊びにきた小学六年生の男子、七海(ななみ)。ビーチに出た七海は砂浜に波がうった後に一本のカラフルな線が残されていることに気づきます。赤、青、黄、白、紫、などの小さな粒で描かれた線は人間が捨てたプラスチック製品のゴミが細かく砕けたものでした。浜辺で知り合ったアーティストに誘われて環境問題をテーマにした展示会を見た七海は、人間が動物たちの生態系をおびやかしていることに衝撃を受けます。同い年のアーティストの少女ピカケに「サステナブル・ビーチ」という小部屋に案内され、彼女の描いた絵に感銘を受けた七海は、海や生き物たちのためにアクションを起すことを誓います。日本に戻った七海は、山と海をつなぐ川をきれいにするためにのゴミ拾いを実践し、環境保護活動の輪を拡げていきます。



サッシーは大まじめ

Seriously Sassy.

作者 マギー・ギブソン
翻訳者 松田綾花
出版社 小鳥遊書房
発行 2019年6月
ISBN 978-4909812100

review



サッシーこと、サスバリア・ワイルドは十三歳ながら地球環境に害を与えるものは許さないゆるぎない信念を持った女子です。近所の大型スーパーの責任者に包装方法について抗議文を送りつけるなど具体的なアクションも盛んですが、議員選挙に出馬する父親からは問題行動を慎むように懇願されます。エコな歌詞で環境問題と動物愛護を訴えるシンガーソングライターを目指すサッシーは選挙活動に協力する交換条件として父親から支援を受けられることになりました。しかし、町の大切な自然であるブルーベルの森が伐採されスポーツ施設やショッピングモールになるという計画を知り、サッシーは新たな使命に目覚めます。父親の選挙もショッピングセンター建設が焦点となり、サッシーの抗議活動も多くの人を巻き込んでいきます。大逆転の大団円が楽しい物語です。

特集
もしやそれは
SDGs



紙版「ハコブネ×ブックス」vol.41

2024年2月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



旧 Twitter 連携しています。@tomostretch

特集

もしやそれはSDGs

SDGsのためなら地球なんて滅んでもいい。そんな急進派の皆さんにも考えて欲しいことがあります。まだまだ目標は達成されていないのに、SDGsはもう飽きたという皆さんにも興味関心をサステナブルにして欲しいものです。児童文学では環境保護活動に邁進する子どもたちが登場します。世の中がなかなか目覚めないことが子どもたちの使命感に火をつけて意識の高いエコ戦士にさせるのです。環境問題とたたかう子どもたちは、正義感が暴走しがちです。正しさに自負があるために誇らしくも無茶をします。正義には愛がなければと思います。地球に対する大いなる愛は、隣人への小さな愛の延長線上にあるものです。環境問題を描く児童文学作品には意外にもSDGsというキーワードは登場しません。キーワードが注目される反面、本質が見失われてはならないのです。もしやそれはSDGsなのかも知れませんが、大切なのはSDGsかどうかではないのです。

わたしたち地球クラブ

THE FIRST RULE OF CLIMATE CLUB.

作者 キャリー・ファイヤー
ストーン
翻訳者 服部理佳
出版社 小学館
発行 2023年12月
ISBN 978-4092906662

review



フィッツシャー中学では、今年、気候変動の現状と原因について調査し、地域に根ざした問題解決のために行動を起こす地球クラブが設けられました。新八年生で、気候変動の影響で生態系が壊されていくことへの危機感を持っている女子、メアリー・ケイト・マーフィーもこのクラブに応募して選ばれます。担任のエド・ルー先生は『われわれには地球を癒やすスーパーパワーがそなわっている』とクラスを鼓舞し、改善のためのプロジェクトを立ち上げるよう促します。メアリーは廃棄される食べ残しを活用した生ごみ堆肥プログラムを進めようとしますが、その資金を得るために、町の助成金を巡って考え方の古い町長と対立することになります。地球クラブから、さらに地球クラブとしてネットワークを発展させて、環境問題を啓発するメアリーの活躍が描かれます。

金曜日のあたしたち

作者 濱野京子
出版社 静山社
発行 2023年6月
ISBN 978-4863897717

review



志望校に合格できなかった悔しさから高校生活を楽しめないまま過ごしていた高校一年生の女子、陽葵(ひなた)。ある金曜日、駅のすぐ近くの広場で、高校生の男女がチラシを配り、地球温暖化を警告する活動を行っているところと遭遇します。それが自分が落ちた志望校の生徒たちであったことに複雑な思いを抱きながらも、彼らの訴えることに陽葵は興味を覚えます。参考文庫やサイトを調べると、このまま気温上昇が続けば、自分たちの未来がヤバイことになると危機感を募らせた陽葵は、毎週行われる未来のための金曜日の集会に参加するようになり、ますます。環境問題以外の社会問題も意識するようになった陽葵は、色々な状況で様々な特性を持って生きていた同じ高校生たちを慮り、心を通わせていくことでコンプレックスを克服していきます。